

17-6 授業解題

授業者：佐古 孝義 先生

単元名：グローバル英語Ⅱ

授業タイトル：「グローバル・イシュー 国際貿易について」

教科（領域）：英語

対象：高校2年生

1. 【グローバル人材育成の観点からみた】本授業の「強み」

本授業は、国際理解教育や社会科教育において使用される教材「新・貿易ゲーム」を、高校英語科において使用することで、英語四技能についての学習とグローバルな経済システムにおける諸問題の学習を同時に追求するという野心的な試みである。

そもそもグローバル・エシックスにおいては、グローバル世界における価値葛藤に焦点化した授業によって、児童生徒が人類共通の「答えのない」問題・課題に対して批判的かつ粘り強く思考する力量を身につけることを1つのテーマとしている。その観点から言えば、本授業はまさにそんなグローバル経済システムにおける価値葛藤を仮想体験しながら、人類共通の価値であるところの公正さ（フェアネス）を追求するという「王道」的な学習を試みている点が最大の強みということができる。

この試みの一定の成功を証明しているのが、生徒たちの反応である。国に見立てられた各グループには、そもそも初期設定として資源や技術等の「格差」が存在しており、そのことは当然ゲームの勝敗に大きな影響を与える。とりわけ下位グループの生徒たちはそのことに違和感を表明したが、そのような感情的コミットメントは、「公正とは何か」という次の段階の探求的学習を導くという意味で本授業の成果を示している。また同様に、上位グループの机に残された「ゴミ」から経済発展がもたらす環境負荷について気付いた生徒たちの表情はとても印象的であった。この点は、グローバル世界における価値が、経済的な成功のみに還元されないこと、言い換えればそこには「効率と公正の両立」という課題が伏在していることに生徒たちが気づいたことを示している。

2. 授業のさらなるグローバル化に向けて

社会科等の学習教材を、英語を用いてプレイするという本授業は、生徒たちのさまざまなグローバルな思考が萌芽するきっかけとなった。そのことを表しているのが、授業後の課題となっている英作文の内容である。生徒たちは、世界が直面している様々な問題（飢餓、格差・不平等、差別、教育の不平等、報道の自由、食品ロス）を主題として伸び伸びと作文を書いている。よって今後の課題としては、これらグローバル思考の萌芽を受け止める多様な授業を、どのように組織していくかという点が挙げられる。

また（本授業に限らない問題だが）生徒たちの学びをどう評価するかという点について

も、今後の課題である。いわゆる「答えのない」探求的な学びの成果に対して、教師の側がどのようなフィードバックを行うかということは、生徒たちの学習の質向上と授業改善の双方にとって重要な論点となる。